

校 訓
学校教育目標

真 善 美

心身ともに健康でたくましく、課題を追究する力を身につけた、
未来社会を担うことができる生徒の育成

申 城ノ古址

令和6年度
第19号

長崎市立片淵中学校

R7.3.17

校長 修行 勝則

感謝・感動・決意！「令和6年度 第78回卒業証書授与式」

3月14日(金)、たくさんのご来賓並びに地域や保護者のみなさまに見守られ、卒業生46名が片淵中学校を巣立っていきました。卒業生代表が述べた「門出のことば」、卒業生全員による「旅立ちの日に」の歌声が参列者の胸を打ちました。卒業生は、旅立つその時まで立派な姿を見せ、見事に、「有終の美」を飾ってくれました。また、在校生の頑張りも見事！在校生代表の「送ることば」、そして、式の準備や会場設営、式中の態度や歌声からは、卒業生に対する深い感謝と学校を担う強い決意が伝わってきました。厳粛な中にも温もりと感動に包まれました。素晴らしい卒業式でした。



卒業証書授与式での「送ることば」と「門出のことば」

【在校生代「送ることば」 2年〇〇〇〇】

冬の寒さも和らぎ、暖かい春の日差しを感じる季節となりました。輝かしい今日という日に三年間の中学校生活を終え、新しい世界へと一歩を踏み出される先輩方、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。今、先輩方の胸の中には、片淵中学校での三年間の思い出が、色鮮やかに蘇っていることと思います。

二年前の春、入学したばかりの私達の心は、不安な気持ちでいっぱいでした。そんなわたしたちに先輩方は、優しく笑顔で接してくださり、安心して中学校生活を始めることができました。みんなを引っ張っていく姿はとても頼もしく、先輩たちはすぐに私達の憧れの存在となりました。

「輝進～光輝燦然～」のテーマのもと最高の思い出となった体育祭。片淵中学校の伝統であるデンマーク体操では、迫力ある演技で、私達を奮い立たせてくれました。一・二年生や仲間たちに、力強いエールを送り、自分たちの競技には、最後まで諦めず夢中で挑む。そんな先輩方の姿がとても印象に残っています。そして何より、紅組と白組、それぞれ全員で作りに上げた、応援合戦。練習では、丁寧に振り付けや掛け声などを教えてくださり、私達を引っ張ってくださいました。本番で、団長を中心に全員が笑顔で踊り、力いっぱい声を張り上げる先輩方は、眩しく輝いていました。「最後の体育祭を、全力で楽しんで、成功させよう。」という強い思いが伝わってくるようで、とてもかっこよかったです。先輩方のおかげで、最高に楽しく、思い出に残る体育祭になりました。



チーム全員で、美しいハーモニーを作り上げた合唱フェスティバル。朝、昼休

み、放課後と学校中に大きく美しい歌声が響き渡り、その歌声からは、金賞を取りたいという気持ちが伝わってきました。また、紅組と白組で分かれて練習した際には、団長がリーダーシップを取り、1人1人が全力で歌う先輩方に圧倒され、私達も気が引き締まりました。本番での先輩方の歌は、力強さの中にも美しい声の重なりが見事で、その圧巻の出来栄に、体育館全体が感動に包まれました。これまで、共に練習してきた仲間との絆がハーモニーとなり、先輩方にしか出せない、先輩の色に染められた素敵な歌声になったのではないのでしょうか。そして、私にとって一番先輩方を身近に感じることでできた、部活動。不安を抱え入部した私達に、先輩方は、アドバイスをくださったり、時には、場を和ませてくださったりして、優しく受け入れてくださいました。そして、先輩方は、自分から声を出し、汗を流しながら、自分の目標に向かって常に努力されていました。最後の中総体では、試合に挑む堂々とした姿から、これまでの努力が感じられ、先輩の偉大さを改めて実感しました。また、技術面だけでなく、メリハリをつけることや仲間、保護者、コーチなど、支えてくださる人への感謝など、大切なことを教えてくださいました。私達はその教えを決して忘れず、しっかりと受け継いでいきます。

先輩方は、勉学においても私達に模範を示してくださいました。冬の寒さが厳しくなる頃、それぞれの進路を決め、夢に向かって努力されていました。二階から聞こえてくる楽しそうな話し声も、受験が近づくにつれて、だんだん小さくなっていきました。そんな先輩方の姿から、受験の厳しさや全員で一体となり協力することの大切さを学びました。

先輩方と過ごした年月は、長いようで、短い二年間でした。思い返せば、先輩方はいつも私達を支えてくださり、憧れの存在でした。お互いを尊重しあい、思いやる優しさ。リーダーシップを取り、最後まで全力でやり通す実行力。みんなを盛り上げ、楽しませてくれる力。そんな先輩方が築き上げてきた伝統を私達がしっかりと受け継ぎ、この片淵中学校を更に素晴らしい学校へと進化させていきたいと思います。

これから夢に向かって前進される途中、迷ったり、辛いことがあったりするかもしれませんが、そんなときは、片淵中学校で過ごした三年間を思い出してください。楽しかったこと、悲しかったこと、共に笑い合ったり泣いたりした、大切な仲間がいることを。それは、先輩方の大きな支えになってくれると思います。

どうか、それぞれの場所で、先輩らしく輝いてください。先輩方の未来が、明るく、素晴らしいものとなるようお願い、送る言葉といたします。

【卒業生代表「門出のことば」 3年〇〇〇〇】

今爽やかな春風が吹くこの学舎で、私達の「中学校生活」という物語が始まったあの日。あれから三年間の時を経て、たくさんの思い出を紡ぎ、私達46名は今、片淵中学校を卒業します。本日は私達のために心温まる式を挙行いただき、ありがとうございます。三年間の日々を思い起こせば、すべての瞬間が私達らしい鮮やかな色彩をもって蘇ってきます



す。毎日通ったあの正門も、皆で作上げた思い出がいっぱいのあの教室も、今日で全てが最後だと思うと、寂しさが溢れます。

2022年、桜の甘く優しい香りとともに私達の中学校生活が始まりました。着慣れない制服に身を包み、ワクワク感とこれからの不安を胸に一年生らしいスタートをきりました。何もかもが中学校初めてで、先輩方の背中を追うので精一杯でした。様々な活動を経験していくうちに、自分や仲間が確実に大人に近づいていることを感じました。小学校から変わらないメンバー。お互いのことをよく知っているはずなのに、ふとした瞬間に感じる今までとは異なる、大人びた雰囲気。仲間の成長に時には圧倒されながら、私達は切磋琢磨してきました。

2023年、たくさんの楽しい行事に期待を膨らませ迎えた中学二年生の春。職場体験に修学旅行、さらに後輩の入学、憧れの「先輩」になろうと決心したあとき。ひとりひとりの情熱がクラスを盛り上げていました。新型コロナウイルスの影響が徐々に薄れ、修学旅行は予定通り、希望していた大阪や京都などに行くことができました。ユニバーサルスタジオジャパン、清水寺、三十三間堂、八幡製鉄所、太宰府天満宮、どの場面の思い出を切り取っても最高の瞬間で、私達だけの笑顔の花が咲きみだれました。楽しさの中にも学びがあり、私達を成長させてくれた修学旅行となりました。

2024年、最高学年という言葉の重みを身を持って感じた春。何をするにも「中学時代最後の」という言葉がつきまってくることに、少し寂しさを感じていました。三年生全員の切れることのない「絆」を実感した体育祭。皆で心ひとつにして挑んだ長縄にはたくさんの苦労がありました。掛け声が合わなかったり、何回も失敗したりして、どんよりとした空気がただよった時期もありました。ですが、そんな壁を乗り越え最高記録を叩き出したときに、紅白関係なく3年生全員が自分ごとのように喜び合っただけで感じた絆は、まるで絶対に切れることのない長縄のようでした。十月に行われた、私達にとって最初で最後の「合唱フェスティバル」では全学年が協力しあって、紅白どちらの団もそれぞれの苦労や感動を語っているような歌声を体育館中に響かせました。私達3年生の学年曲であった「君が君に歌う歌」は、混声四部合唱で少し難しい曲でしたが、毎朝、昼休み、放課後など合唱フェスティバル実行委員、パートリーダーを中心に皆で創り上げました。後日行われた、「連合音楽会」は、自分たちの響き渡る歌声に感動し、歌っていた私自身も心打たれました。「君は夢見ているかい。誰かの夢を笑っていないかい。周りが敵に見えてたり。うらやましいとおもったりして。」この歌詞覚えていますよね。少しずつ自分の進路が見えてきたときに、なんで自分だけこんななんだろうとか、あの子はどうだとか周りが敵に見えたり、うらやましがったりした時期でもあった私達の心に深く突き刺さりました。みんなそれぞれの目標に向かう「仲間」なんだとこの歌が教えてくれた気がしました。46人で清流と濁流を乗り越え、倒れたら立ち上がり、汚れたらまた洗って。私たちは大人へ

の第一歩を今踏み出します。このように、全力で楽しむことができた中学校生活があるのは、私達をあたたく見守り、支えてくださった、多くの方々のおかげです。成功と失敗を繰り返す私達に、挑戦する大切さと、失敗を恐れない精神を教えてくださいました先生方。日々、私達を太陽のような温かさで見守り、うまくいかないときには、的確なご指導をしてくださったおかげで、私達はこんなにも成長することができました。さらに、地域を巻き込んでの大きな生徒会活動にも「やってみなさい」と背中をおしてくれた先生方には本当に感謝しかありません。実り多き生涯にするための材料を先生方からたくさんいただきました。私達はこれからも、それぞれの道で先生方から学んだことを活かし、はばたいていきます。本当にありがとうございました。

在校生の皆さん。各行事、生徒会活動、部活動などで皆さんと共にした時間はかけがえのない宝物です。縦の関係を深めることを意識したこの一年間で全校生徒の仲がグッと縮まりましたね。私達を慕い、支えてくれたこと、105人で作り上げた一年間は本当に楽しい思い出となりました。進級し、二年生は最高学年に、一年生は後輩が入学し、先輩になります。ときには、うまくいかないこと、不安になることもあるでしょう。ですが、挑戦を恐れないでください。チャレンジ精神を忘れず、行動すれば必ずなにかしらの「学び」があるはずです。困ったときやどうしようもないときでも皆さんは一人ではありません。まわりにいる仲間や先生が支えてくれます。今まで作り上げてきた片淵中学校の伝統というバトンを皆さんにたくします。皆さんの活躍を心から期待し、全力で応援しています。そして、いつも一番近くで私達を支えてくれた家族。私達の背中を押してくれたこと、進路で悩んでいる時も一緒になって考えてくれたことなど、感謝の気持ちでいっぱいです。これからも自分たちの足で一步ずつ進んでいく私達を見守っててください。最後に三年生の皆。日々減っていく、卒業までのカウントダウンカレンダーの数にどこか寂しさを感じていましたね。皆と楽しい思い出が増えるたびに、このまま時間が止まればいいのにと何度思ったことでしょう。ですが、時間は待ったなしで進んでいきます。定期テスト開始直前まで皆で必死に単語を頭に詰め込んだあの時間も、お腹がちぎれるくらい笑ったあの時間も、授業の開始時間が過ぎてから先生を呼びに行くか行かないか口論したあの時間も、もう巻き戻すことはできません。とても切なく感じますが、辛くても春が来るたび、また桜は咲きます。たくさんの思い出が詰まったこの中学校生活はまさに「宝石箱」。この思い出を胸に、自分自身が選んだ道を自分らしく歩んでいきましょう。この卒業の日を迎えることができたのも、たくさんの方の優しさ、支えがあったからです。そのすべての方に感謝を申し上げるとともに、片淵中学校の益々の発展をお祈りし、門出の言葉といたします。